

句集

童女

井上正子



毛虫焼きし手に開きたる聖書かな

凍雲や幾度も読むヨブの章

聖書研究会最年長の春愁

「太初に言あり」と聖書を読みはじむ

とどのつまりは聖書にもどる秋思かな

敬老の日より聖書を大判に

冬銀河余生は神に委ねけり

父病みて母を離さず藤の雨

梅雨の雷父の寝嵩の薄きこと

一握の髪を洗ひて母寧し

生き過ぎしと母のつぶやけり秋の蝶

天界の父許へ母雪しまく

春眠の中でころころ笑ふ母

母とあればわれは娘よ草紅葉

鳥雲に子離れ易し易からず

山茶花に蕾びっしり子に会ひたし

弁理師試験合格の子よ冬もみぢ

嫁二人とほどよき距離の初音かな

雛の夜や立ち居優しき嫁の居て

石落咲くや奇数日の祈り夫の役

夫の炊きし飯艶やかに松過ぎし

夫のまだ背筋真っ直ぐ芒原

夫の淹れるキサマンジャロや秋の昼

春宵や夫の語れるビッグバン

夫が買ふ亀の子束子黄落期

手術前

羅や乳房失ふやも知れず

ばらの香や明日入院の身繕ひ

手術終る折しも窓の月明り

退院後の初の手料理茸飯

手術後の傾く肩や秋時雨

人形に穿かす夏足袋人形展

北窓を開け吾が工房の二畳かな

雛作る母の遺しし帯を裁ち

自作人形ここだ眠らせ冬の月

縫
初
や
雛
の
た
め
の
緋
の
袴

伊
吹
風
一
陣
花
野
を
輝
か
す

伊
吹
山
麓
雪
に
埋
も
れ
し
宿
場
町

落
暉
い
ま
鷹
舞
ひ
上
る
伊
吹
の
嶺

子を背負しねんねこ未だ捨てられず

強東風や埴輪の眼通り抜け

花の宴かつて動員学徒たり

初蝶や我が子の墓を巡り舞ふ

鳥雲に乳房再生聞き流す

老いの坂ゆるやかであれ花蘇枋

医者になる孫との逢瀬初燕

教会でのゴスペル熱唱五月晴

天界の子よ初蟬の鳴き始む

友人に年下が増えレモン水

萩括る医師の診断疑はず

居待月母の秘め事聞かされし

著者略歴

井上 正子

昭和四年

一月七日

山口県岩国市に生まる

昭和四十年

「春燈」入会

平成九年

俳人協会会員

平成二十一年

「春燈」燈下集（同人）

句集 童女

奉燈叢書 第一八五篇

発行日 平成二十七年七月十五日

著者 井上 正子

制作・印刷 株式会社日東印刷

出版 樹々

大阪府高槻市柱本三―二―三

〇七二―六七七―五二七一